

福島森林の現状と課題および研究の進展

Forests of Fukushima -Current status, issues and research progress-

(2) 原発事故から13年 福島県の農林水産業の課題と今後

(2) Agriculture, Forestry and Fisheries of Fukushima Prefecture

- Current status, issues and future from the nuclear disaster

*荻野 憲一¹,¹福島県農林企画課

1. 原発事故による農林水産業に関する被災状況

原発事故により避難指示が出された12市町村においては区域内の農地に立ち入ることができなくなり、17,298haで営農が休止した。

また、原発事故で広がった放射性物質の影響で、避難区域以外の地域においても、米の作付け制限や、野菜や果実、きのこなどについても、放射性物質の検査により基準値を超過した場合は出荷制限が行われた。

2. 復旧・復興の取組

2-1. 農地等の除染、吸収抑制対策

放射性物質を除去するため、農地の表土の削り取り、表層に集積している放射性セシウムを下層に埋却する反転耕、樹皮の洗浄等を行ったほか、放射性物質の吸収抑制対策として、稲わらのすきこみや土の状況に応じた塩化カリ肥料などの追加施用を実施した。

また、農業用ため池の底にたまった放射性物質の除去のため、ポンプ浚渫により除染を実施し、令和5年度末までに約87%のため池で対策工事が完了している。

2-2. 県産農林水産物の安全・安心に向けた取組

県産農林水産物は、出荷前に国のガイドラインに基づき県が放射性物質検査を実施し、安全性を確認している。基準値を超過した品目は市町村単位で出荷が制限され、流通しない仕組みとしている。

2-3. 営農再開に向けた取組

避難指示が解除された地域での営農再開は徐々に進んでおり、避難指示が出された12市町村の営農再開面積は令和5年度末で約49.7%。避難指示の解除時期は地域によって大きく異なり、解除されて間もない地域は営農再開の初期段階であることから、今後も切れ目のない支援が必要である。

2-4. 森林・林業の復旧・復興に向けた取組

原発事故の影響により、森林整備や素材生産等の林業生産活動は大きく落ち込んだが、震災から13年が経過し徐々に回復傾向にある。

現在は、森林整備とその実施に必要な放射性物質対策をはじめ、原木林や特用林産物の産地再生、木材製品生産拠点施設の整備、人材育成に向けた取組を実施している。

3. 残された課題と今後の展望

避難指示が出された12市町村の営農再開や産地再生はもとより、農業産出額の向上のため生産力及びブランド力の回復・強化が必要である。

また、森林では除染がされていないため未だに空間線量が高い場所が残されていることから、森林環境モニタリング調査、間伐等の森林整備とそれに必要な放射性物質対策、住民が安心して利用できる里山の環境づくり等の継続が必要である。

*Kenichi OGINO¹¹Agriculture and Forestry Planning Division of Fukushima Prefecture Government